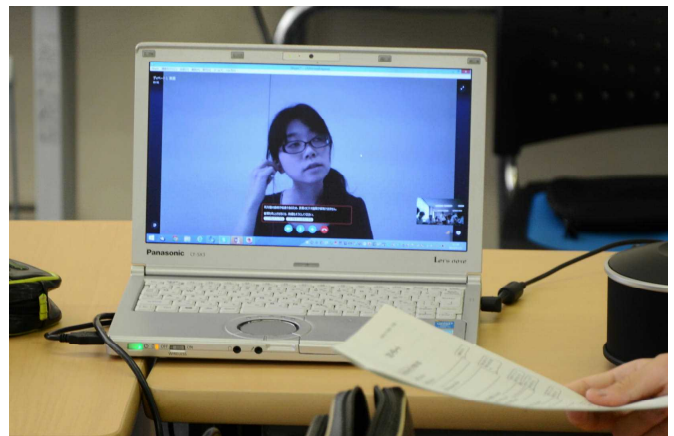


第1回

即興型英語ディベート講習会

2015年7月21日(火) 13時～15時30分、英語演習室にて「第1回即興型英語ディベート講習会」を実施しました。参加生徒は、高校1, 2年生の希望者37名。講師は、**中川 智皓(ちひろ)**先生。また、ジャッジとして、同行された大賀隆次先生(日本英語交流連盟)に加え、**スカイプ**を使って、引間さん、横山さん、浅井さんの3名が参加してくださいました。画期的な取り組みに、会場は大きく盛り上がり、生徒達は大健闘。中川先生をはじめジャッジからは「初めてでこれだけできる高校生はなかなかいない」とお褒めの言葉をいただきました。なお、中川先生と大賀先生は、当日、大阪から駆けつけていただき、終了後直ちにお帰りになされました。スカイプに関する機材も中川先生が用意してくださいました。(スカイプの技術的なサポートは、3年生の柿沼君と栗島君が協力してくれました。)



↑スカイプで、ジャッジのコメントを聞く↑



中川先生は、現在、大阪府立大学工学研究科で機械工学分野の研究をされている。ディベートについては、東京大学英語ディベート部を設立し、大学生英語ディベート世界大会 ESL 準決勝進出(日本最高記録)という輝かしい経歴をお持ちである。「高等学校における授業向けの即興型英語ディベート実践研究」(文部科学省助成事業)を行っている。

ディベートは、一つの論題に対し、肯定と否定チーム(3名ずつ)に分かれ、各々のチームが第三者を説得させる形式であるが、「即興型」は、論題が発表されてから15分～20分の短い準備時間の後、ディベートを開始する、という特徴がある。

即興型英語ディベートで身に付く主な力は、英語での発信力(即興で英語で話す)、論理的思考力(批判的思考)、幅広い知識(様々な論題への対応)、プレゼンテーション力(聴衆を意識)、コミュニケーション力(チームでの活動)である。



(以上、HP「高等学校における即興型英語ディベートプロジェクト」より <http://englishdebate.org/>)

◎本日の論題は2つで、2回の対戦が行われた。(3名または4名で1チーム)

First:

「Convenience stores should be closed late at night : コンビニは深夜営業をやめるべきだ」

Second :

「Domestic travel is better than traveling abroad for a school trip : 修学旅行は海外より国内のほうがよい」

① 15分の準備時間で作戦を練る



② Government (肯定側) と Opposition (否定側) それぞれがスピーチ (1人3分または2分) を行う



③ ジャッジの判定とアドバイスを聞く。各対戦でのベストディベーターの発表



＜即興型ディベート講習を受講して ～ ベストディベーターの受賞者より＞

◎西川実来さん(2年)

・以前、授業で行った準備型のディベートよりも非常に難しく感じた。直前まで話していた人の主張に対して、まさに即興で、思いついたそばから、英語で、しかも論理的に述べなくてはならないからだ。しかし、チームの友達と協力して、自分たちの意見を練ることができ、楽しみながら講習に参加することができた。

◎大森沙也花さん(2年)

・ディベートを行って、自分のボキャブラリーは、まだまだ足りないと思った。また、世界で起こっている様々な出来事も知っていなければ説得力がないということも実感した。



今回の参加者。次回も参加者を募集します。